

3 果樹

1) りんご

(1) 防除法 (殺菌剤)

【注意】乳剤及び水和剤等で「150～」等と記載した 10a 当り散布液量（または希釈水量）は、作物の生育段階や散布作業等を考慮した目安である。農薬使用に当たっては、必ず農薬容器のラベルを確認し、使用方法に散布液量（または希釈水量）の記載がある場合は、その量を遵守すること。

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
赤 星 病	4月上旬 開花直前・落花直後 落花直後 随時	○ 中間宿主（びゃくしん類）上の赤星病を防除する（備考欄）。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 DMI 剤（DMI 剤の使い方 参照） DMI 混合剤（DMI 剤の使い方 参照） トレノックスフロアブル チオノックフロアブル ○ りんご園周辺にある中間寄主（びゃくしん類）を伐採する。	○ びゃくしん類にバシタック水和剤 75 を冬胞子堆膨潤前に散布する。
うどんこ病	落葉期間（11月～3月） 発芽 2 週間以降 開花直前～落花 25 日後 随時	○ 被害新梢は、先刈りする。 ○ 第一次発生による被害部は、見つけ次第摘除する。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ユニックス顆粒水和剤 47 DMI 剤（DMI 剤の使い方 参照） DMI 混合剤（DMI 剤の使い方 参照） ○ 被害花そう葉、被害新梢を剪除する。	
褐 斑 病	落葉期間（11月～3月） 落 花 期 5月中旬～6月中旬 6月下旬～9月	○ 本病の第一次伝染源となる前年の被害落葉を処理する。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 トレノックスフロアブル チオノックフロアブル ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アントラコール顆粒水和剤 オーソサイド水和剤 80 セルカディス D フロアブル ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤 トレノックスフロアブル チオノックフロアブル デランフロアブル（右備考参照） DMI 剤（DMI 剤の使い方 参照） オンリーワンフロアブル QoI 剤 ファンタジスタ顆粒水和剤 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アリエッティ水和剤 アリエッティ C 水和剤 オーソサイド水和剤 80 キノンドー顆粒水和剤 キノンドー水和剤 80 キノンドーフロアブル ドキリンフロアブル オキシラン水和剤 パレード 15 フロアブル フルーツガードWDG QoI 剤 ストロビードライフロアブル フリントフロアブル 25 ツインバリアー水和剤 ナリアWDG	○ 本病の第一次感染は 5 月上旬頃から始まり、5 月下旬頃最盛期を迎える。前年本病の発生が多かった園地では、5 月下旬にオンリーワンフロアブル（DMI 剤）又はデランフロアブルを散布する。 ○ QoI 剤使用は、年 2 回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止） ○ QoI 剤使用は、年 2 回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止）

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
すす点病 すす斑病	6月～7月	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アントラコール顆粒水和剤 ジマンダイセン水和剤 トレノックスフロアブル チオノックフロアブル	○ 散布間隔をあけすぎたり、最終散布を早く切り上げたりしない。
	6月～9月	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アリエッティC水和剤 ストライド顆粒水和剤 オーソサイド水和剤80 キノンドー顆粒水和剤 キノンドー水和剤80 キノンドーフロアブル ドキリンフロアブル オキシラン水和剤 ブルーツセイバー QoI 剤 ストロビードライフロアブル フリントフロアブル25 ツインバリアー水和剤 ナリアWDG	○ ストライド顆粒水和剤はりんごに使用する場合、品種によって葉裏が茶褐色をおびることがあるが、通常、実用上の影響は認められていない。但し、樹勢の弱い樹で特に品種「スターキング」では梅雨明け頃の高温時の散布において、落葉を助長するおそれがあるので使用しない。 ○ QoI 剤の使用は、年2回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止）
	7月	○ 次の薬剤を散布する。 パスポート顆粒水和剤	○ パスポート顆粒水和剤は散布によりサビ果が多くなるおそれがあるので、開花直前から落花後20日までの間は散布を避ける。
	7月以降	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ベルクート水和剤 ベルクートフロアブル ダイパワー水和剤	
	随時	○ 有袋栽培では、薬剤を十分散布してから直ちに被袋する。 ○ 密植園、多湿園では発生が多いので改善する。	
炭 疽 病	6月～7月	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 トレノックスフロアブル チオノックフロアブル ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤 デランフロアブル	
	6月～9月	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アリエッティC水和剤 ストライド顆粒水和剤 オーソサイド水和剤80 キノンドー顆粒水和剤 キノンドー水和剤80 キノンドーフロアブル ドキリンフロアブル オキシラン水和剤 QoI 剤 ストロビードライフロアブル フリントフロアブル25 ツインバリアー水和剤 ナリアWDG	○ ストライド顆粒水和剤はりんごに使用する場合、品種によって葉裏が茶褐色をおびることがあるが、通常、実用上の影響は認められていない。但し、樹勢の弱い樹で特に品種「スターキング」では梅雨明け頃の高温時の散布において、落葉を助長するおそれがあるので使用しない。 ○ QoI 剤使用は、年2回までとし、連用しない。（耐性菌出現防止）。
	7月	○ 次の薬剤を散布する。 パスポート顆粒水和剤	○ パスポート顆粒水和剤は散布によりサビ果が多くなるおそれがあるので、開花直前から落花後20日までの間は散布を避ける
	7月以降	○ 次の薬剤を散布する。 ダイパワー水和剤	
	6月下旬～7月中旬	○ 次の薬剤を散布する。 ICボルドー412	
	7月～9月	○ 次の薬剤を散布する。 ベフキノン水和剤	
	随時	○ りんご園周辺にあるニセアカシア、クルミ類、イチハギ等を伐採する。	

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
腐らん病	剪定時病患部削り取り直後 剪定時病患部削り取り直後 随時 休眠期	○ 次の薬剤いずれかを塗布する。 トップジンMオイルペースト（原液） トップジンMペースト（原液） バッチレート（原液） ○ 次の薬剤を噴射する。 フランカットスプレー ○ 発生園では、病患部の削り取りや被害枝を剪定して適正に処分する。 ○ 次の薬剤を散布する。 石灰硫黄合剤	
胴枯病	随時	○ 発生園では、病患部の削り取りや被害枝を剪定して適正に処分する。	
モニリア病	落葉期間 (11月～3月) 発芽直後～発芽10日後 開花直前 随時	○ 園内を清掃し、清耕とする。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ストライド顆粒水和剤 パスポート顆粒水和剤 ○ 葉腐れ発生園や例年本病が多発する園は上記の防除に引き続き次の薬剤いずれかを散布する。 フルーツセイバー DMI 剤 アンビルフロアブル ○ 葉腐れ、花腐れは第二次伝染源、実腐れ、株腐れは翌年の発生源となるので、地面に落ちないうちに摘みとり適正に処分する。	○ 発芽直後の散布は遅れないようにする。 ○ アンビルフロアブル以外のDMI 剤はDMI 剤の使い方参照
紋 羽 病	植付前	○ 植付予定地を約60cmの深さに耕起、整地し、30×30cmごとに深さ30～40cmの位置に、クロールピクリンを5～10ml注入して直ちに覆土し、ポリエチレン、ビニールなどで被覆する。処理後20日以上経過してから植え付ける。	○ 被害跡地の消毒は、整地前に被害根を完全に取り除いてから行う。 ○ 処理はできるだけ高温時に行う。 ○ 本病の治療は発病の初期でないと効果が期待できないので、常に検診を行い、早期発見に努める。 ○ 治療樹は、樹勢が回復するまで果実をつけず肥培管理を行う。また、常に検診を行い再発に注意する。 ○ フジワン粒剤は苗木に対して移植時に処理すると薬害を生ずる場合があるので、移植1年後以降に処理する。
(白紋羽病)	苗木消毒	○ 次の薬剤を根部浸漬し、直ちに植え付ける。 ベンレート水和剤	
	発病初期	○ 露出させた根の病患部を削り取り、落花直後までにフジワン粒剤を1樹当たり3～5kg堀り上げた土壌と混和して埋め戻す。	
(紫紋羽病)	発病初期	○ 樹幹周辺部を掘りおこし、被害根を除去した後リゾレックス水和剤を灌注する。汚染土が薬液とよく混じるように埋め戻す。収穫60日前であれば生育期でも処理できる。	
(白紋羽病、紫紋羽病)	発病初期	○ フロンサイドSCを樹幹から半径1m程度の範囲に土壌灌注する。 ○ 被害が極めて軽度な場合は、被害根を露出して被害部を除去しそのまま半年～1年放置してから覆土する。	
斑点落葉病	落葉期間 (11月～3月) 落花期	○ 園地の清掃を行う。 ○ 剪定時に不必要な徒長枝は剪除する。 ○ 次の薬剤いずれかを散布する。 DMI 混合剤(DMI 剤の使い方参照) トレノックスフロアブル チオノックフロアブル セルカディスDフロアブル カナメフロアブル	

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
斑点落葉病	5月下旬 ～6月中旬	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アントラコール顆粒水和剤 ジマンダイセン水和剤 ペンコゼブ水和剤 トレノックスフロアブル チオノックフロアブル パレード15フロアブル フルーツセイバー QoI 剤 ファンタジスタ顆粒水和剤 ツインバリアー水和剤	○ QoI 剤使用は、年2回までとし、連用しない。 (耐性菌出現防止)。
	6月上旬 ～6月中旬	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アリエッティC水和剤 アントラコール顆粒水和剤 オーソサイド水和剤80 フルーツセイバー フルーツガードWDG QoI 剤 ファンタジスタ顆粒水和剤	
	6月下旬 ～7月中旬	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 4-12式ボルドー液 ICボルドー412 デランフロアブル パスポート顆粒水和剤	○ ボルドー液と他の殺菌剤との交互散布はしない。 ○ パスポート顆粒水和剤は散布によりサビ果が多くなるおそれがあるので、開花直前から落花後20日までの間は散布を避ける。
	7月以降	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 ベルクート水和剤 ベルクートフロアブル ダイパワー水和剤	
	6月下旬 ～9月中旬	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アリエッティC水和剤 ストライド顆粒水和剤 オーソサイド水和剤80 キンセット水和剤80 キノンドー顆粒水和剤 キノンドーフロアブル キノンドー水和剤80 ドキリンフロアブル オキシラン水和剤 ユニックス顆粒水和剤47 QoI 剤 ストロビードライフロアブル フリントフロアブル25 ナリアWDG	○ ストライド顆粒水和剤はりんごに使用する場合、品種によって葉裏が茶褐色をおびることがあるが、通常、実用上の影響は認められていない。但し、樹勢の弱い樹でとくに品種「スターキング」では梅雨明け頃の高湿時の散布において、落葉を助長するおそれがあるので使用しない。 ○ キンセット水和剤80は薬害軽減のためクレフノンを必ず加用する。
	9月中旬以降 (特散)	○ 有袋栽培で果実に発生を認めた場合は、直ちに除袋し、薬剤を散布する。	
	随時	○ 樹冠内部の不必要な徒長枝は剪除する。	
輪 紋 病	落葉期間 (11月 ～3月)	○ 剪定枝は園内に放置しない。 ○ 剪定時には被害枝を剪除する。 ○ 3～5年枝を中心にいぼ枝を削り取る。	
	6～8月	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 アリエッティC水和剤 キノンドー顆粒水和剤 キノンドーフロアブル キノンドー水和剤80 ドキリンフロアブル オキシラン水和剤 フルーツガードWDG QoI 剤 ストロビードライフロアブル フリントフロアブル25 ツインバリアー水和剤 ナリアWDG	○ 薬剤は、枝幹、果実に十分にかかるように散布し、剪定した被害枝は園内に放置しない。 ○ QoI 剤使用は、年2回までとし、連用しない。 (耐性菌出現防止)。
	7月	○ 次の薬剤を散布する。 パスポート顆粒水和剤	○ パスポート顆粒水和剤は散布によりサビ果が多くなるおそれがあるので、開花直前から落花後20日までの間は散布を避ける。

病 害 虫 名	防除適期	防 除 方 法	備 考
輪 紋 病	7月以降 6月下旬 ～7月中旬	○ 次の薬剤いずれかを散布する。 シトラノフロアブル ベルコート水和剤 ベルコートフロアブル ダイパワー水和剤 ○ 次の薬剤を散布する。 I C ボルドー 4 1 2	○ シトラノフロアブルは 樹勢が弱い樹では連続散 布すると落葉すること があるので注意する。

(りんご) DMI 剤の使い方

薬 剤 名		赤星病	うどんこ病	褐斑病	黒星病	モニリア病	斑点落葉病
D M I 剤	アンビルフロアブル	◎	◎		◎	◎	○
	インダーフロアブル	◎	◎	○	◎	○	○
	オーシャイン水和剤	◎	◎		◎	○	○
	オンリーワンフロアブル		◎	◎	◎	○	○
	サルバトーレME	◎	◎		◎	○	
	サンリット水和剤	◎	◎	○	◎		○
	スコア顆粒水和剤	◎	◎		◎	○	○
	マネージDF	◎	◎		◎		
	ラリー水和剤	◎			◎		○
D M I 混 合 剤	+マンゼブ						
	ブローダ水和剤	◎	◎		◎	○	○
	スコアMZ水和剤	◎	◎		◎		○

◎：効果が高い

注) DMI 剤及びDMI 混合剤は耐性菌出現防止のため、年間2回以内の使用とする。